



報道関係各位

2017 年 5 月 17 日

東京経済大学ニュース

Vol. 08

東京経済大学ホームページ : <http://www.tku.ac.jp/>

CONTENTS

特集 1 教学ビジョン「東経大チャレンジ 2020」の策定

～4つのクオリティを向上させ、学生が自信と元気を持てる大学へ～

特集 2 2017 年度 教員一覧

東経大インフォメーション

① 新任役職者紹介

2017 年 4 月 1 日付でコミュニケーション学部長が新たに就任

② 2017 年度入試報告

3 年連続で志願者が増加。推薦、A0 は過去最高を更新

③ 「大倉喜八郎 進一層館 (Forward Hall)」が歴史的建造物に選定

過去には日本建築学会賞やグッドデザイン賞の受賞も

④ 2016 年度 進一層トライアル活動報告

⑤ 創立 120 周年記念プロジェクトスタート

学生自身の手で、4 年間のチャレンジを動画に記録

⑥ 大学案内「Space2018」発行

「わたしが、わたしらしく。」が 5 月 19 日（金）に登場

⑦ その他

- ・大学説明会開催
- ・大倉喜八郎 口述『致富の鍵』刊行
- ・第 7 回 東京経済大学・国分寺地域連携フォーラム
「都市農業 “2.0” ～新時代の都市農地の可能性～」
- ・大倉学芸振興会学術講演会
「国鉄分割民営化 30 年ー歴史の文脈の中で考えるー」

特集1 教学ビジョン「東経大チャレンジ 2020」の策定

～4つのクオリティを向上させ、学生が自信と元気を持てる大学へ～

EDUCATION QUALITY

〈エデュケーション・クオリティ〉

自ら学ぶ、ゼミする東経大

少人数教育の拡充により
学生の成長の最大化にチャレンジ



CAREER QUALITY

〈キャリア・クオリティ〉

安心の、就職力

ひとりひとりの将来に真正面に向き合う
キャリア支援にチャレンジ



チャレンジする 学生を育てる

学生たちの
潜在能力を最大限に引き出すことが
東経大のミッションです



SUPPORT QUALITY

〈サポート・クオリティ〉

自立を促す、多様な支援

個性に応じた
きめ細やかなサポートにチャレンジ



CAMPUS QUALITY

〈キャンパス・クオリティ〉

環境との共生、地域社会との連携

自然との調和、
地域とつながる大学へチャレンジ

2020年、本学は創立120周年を迎えるにあたり、教学ビジョン「東経大チャレンジ 2020」を策定しました。

本学の「建学の精神」である「進一層（しんいつそう）」をベースに、エデュケーション、キャリア、サポート、キャンパスの「4つのクオリティ」の向上を通じて、「チャレンジする学生の育成」を目指すという姿勢を示しています。



「東経大チャレンジ 2020」 現在の特色と2017年度の主な取り組み

 EDUCATION QUALITY	 CAREER QUALITY	 SUPPORT QUALITY	 CAMPUS QUALITY
ゼミやワークショップを中心とした少人数教育を推進し、学修成果の的確な把握などにより、基礎力から高度な専門的知識までの修得を図る 現在の特色 ①4年間を通じた活発なゼミ教育！「社会科学系ゼミ」と「教養系ゼミ」のいずれも履修でき、多様なテーマから選択可能。海外でのゼミ研修も毎年多数実施 ②4つの学部連携！所属学部以外の専門科目も履修可能 ③正課授業と連動した6つのアドバンストプログラム！高度な資格や語学力の修得をめざし、卒業に必要な単位としても認定 ▶「小規模だが評価できる大学」全国26位、「教育力が高い大学」全国45位（『大学探しランキングブック2017』大学通信）	自分を知り、社会を知り、時代を知ること、これからの社会の変化に対応できる力を育てる 現在の特色 ①特色あるキャリア教育！自ら将来を切り拓いていくための、社会人としての基礎力を身につけるさまざまな授業を展開 ②1年次から始まる多彩な就職支援！全員面談に加え年間800回以上の就職支援行事を実施 ③充実した資格取得支援！専門学校と提携したキャリア・サポートコース ④質の高い就職実績！就職率94.2%、そのうち、正社員としての採用率は99.2%（2017年3月卒業生） ▶「就職に力を入れている大学」全国26位（『大学探しランキングブック2017』大学通信）	学習の支え、生活の支え、心の支え。学生ひとりひとりの自立性の涵養を目的とした全学的なサポート体制をつくる 現在の特色 ①本学独自の経済支援！給付型奨学金・特待生制度・授業料減免・海外留学研修費用補助・資格取得講座料補助などの制度による高い給付率 ②きめ細やかな相談体制！学習センター・学生相談室・グローバルラウンジ・教職ラウンジ・人権相談室など、目的に応じた多様な支援を実施 ③卒業生による支援！業界別・地域別就職支援を実施 ④父母の会による支援！奨学金・助成金・表彰制度を実施 ▶「面倒見がよい大学」全国23位（『大学探しランキングブック2017』大学通信）	時代と社会の要請に応えるために「環境と共生する大学」「地域と社会に開かれた大学」をめざす 現在の特色 ①自然と伝統の園分寺キャンパス！「東京の名湯水57選」に選ばれた新次郎池をはじめとして、武蔵野の自然が残る緑に囲まれたキャンパス。教室棟には環境に配慮した設備とともに最新のICT設備を設置 ②最新スポーツ施設の武蔵村山キャンパス！2015年に全面的なリニューアル ③エコキャンパス宣言！「環境と共生する持続可能な社会の創造」への貢献を使命として2010年に宣言 ④地域貢献に取り組む地域連携センター！学生・教職員の地域貢献活動を促進 ▶2014年、2015年にグッドデザイン賞を受賞（新図書館など3棟） ▶2017年に東京都歴史的建造物に指定（旧図書館）
2017年度の主な取り組み ■キャリアデザインプログラムの開始（4年間を通じた段階的・継続的な少人数キャリア教育の実施） ■「進一層科目群」のスタート（ゼミとキャリア教育の重点強化） ■「特命講師」制度の新設（キャリア教育・地域貢献活動などの充実）	2017年度の主な取り組み ■公認会計士試験合格者増加策の実施 ■キャリア教育の専門家による授業時間外のサポート ■半期留学制度の導入などによる学生海外派遣の拡大	2017年度の主な取り組み ■学生支援の財政的基盤および学生経済支援制度の強化 ■スポーツ奨励を目的とした支援（創立120周年記念事業の一環として陸上競技部の駅伝チーム強化など） ■グローバルラウンジの多角的な活用 ■教職ラウンジの活用促進と教職をめざす学生の支援強化	2017年度の主な取り組み ■「エコキャンパス宣言」の実現に向けた取り組み（「森と水のプロジェクト」「低炭素型キャンパス」の推進など） ■武蔵村山キャンパスのスポーツ施設の活用および課外活動の活性化 ■アクティブラーニングの推進に向けたマルチメディア利用環境の整備



特集 2 2017 年度 教員一覧

2017 年度現在、在籍している教員を紹介させていただきます。本学には経済学部、経営学部、コミュニケーション学部、現代法学部と 4 つの学部において、優秀な研究成果を残している教員が多数在籍しております。なお、教員の詳細な経歴および研究内容につきましては、本学 Web サイト教員紹介ページ (<http://www.tku.ac.jp/department/administration/teacher/>) をご覧ください。

経済学部		
職名	氏名	研究分野
教授	麻生 博之	Th.W.アドルノの哲学を端緒とした近現代ドイツ思想の研究
准教授	石川 雅也	企業の財務的意思決定の諸要因、コーポレート・ガバナンスの理論・実証研究
特任講師	市川 ゆりえ	英語
教授	井上 裕行	金融危機後の経済政策、日本経済の長期的な構造変化
准教授	岩田 佳久	マルクス経済学原理論、現代資本主義論、新自由主義、信用論、景気循環論 マルクス経済学原理論、現代資本主義論、新自由主義、信用論、景気循環論
教授	上野 麻美	室町期浄土僧聖聡著『禅林小歌註』の諸本調査と内容分析
教授	牛尾 吉昭	寡占市場における課税や合併の効果についての理論的分析
准教授	遠藤 妙子	ゲーム理論を応用した政治経済学分析
准教授	大久保 奈弥	海洋生物の保全、サンゴの発生の多様性
教授	大貫 敬一	ロールシャッハ・テストの人間表象反応
教授	岡本 英男	福祉国家財政の研究
准教授	尾崎 寛直	コミュニティの再生とまちづくり、環境再生の社会政策
准教授	小田 登志子	意味論・統語論
教授	釜江 廣志	戦前以来の債券流通市場の分析
教授	熊本 方雄	通貨統合下における金融政策の分析、通貨代替下における金融政策の分析、金融市場統合の分析
専任講師	黒田 敏史	競争政策、産業組織論、ネットワーク産業、プラットフォーム競争
教授	小島 健	欧州統合における非政府組織の役割、EU 社会政策の歴史と現状、ベルギー連邦制史
教授	小島 寛	資本価値、価値法則、景気循環
教授	小林 健一	アメリカ電力自由化とクリーン・エネルギー、アメリカの環境・エネルギー



		ギー政策、自動車産業、アメリカの産業構造の転換
教授	堺 憲一	戦後イタリア経済史、経済小説、クルマの歴史
准教授	サフチェンコ, L	金融危機の連鎖
教授	周 牧之	中国経済政策に関する研究、中国都市化に関する研究、東アジア FTA に関する研究
教授	浄土 渉	理論経済学
教授	鈴木 直	比較近代化論、貨幣論、世俗化理論
特命講師	鈴木 恒雄	地域貢献
准教授	高津 秀之	西洋史・ヨーロッパ中近世史・都市史・宗教改革史
教授	対馬 輝昭	外国語音声知覚・発音能力の発達的变化に関連する重要な仮説を検証と、日本人英語学習者が発する英語の言語学的特徴の検証
准教授	戸邊 秀明	戦後沖縄復帰運動史の社会史的研究、戦後日本史学史の思想史的研究
教授	富岡 義志雄	サッカーのゲーム分析、サッカーの指導法
教授	内藤 隆夫	日本石油産業史、近代佐渡鉱山史、地方金融史
教授	中野 新之祐	日本の民衆の教育の心性史、高度経済成長が及ぼした教育への心性の変化
教授	中村 豪	新技術導入が生産性に及ぼす効果の実証分析、産学連携が研究開発活動に及ぼす効果の実証分析、競争環境の変化が企業行動に及ぼす効果の実証分析
教授	長岡 貞男	経済政策
教授	南原 真	タイのビール産業史、両大戦間期における三井物産のタイでの事業活動、東南アジアにおける戦前の欧米商会 Borneo 社の事業活動
専任講師	新井田 智幸	経済学説・経済思想
准教授	野田 浩二	環境政策(とくに水問題)研究、制度派環境経済学の理論的・思想的研究
教授	浜野 忠司	収穫逓増技術のもとでの一般均衡理論および協力ゲーム理論
准教授	早尾 貴紀	ディアスポラ研究、パレスチナ・イスラエル問題
特任講師	樋口 和洋	健康科学
教授	福士 正博	環境思想、EU 共通農業政策
特任講師	藤井 佳代子	英語
特任講師	藤井 博	キャリアデザイン



特任講師	ミッチェル グラント	英語
特任講師	南 英樹	スポーツ
客員教授	南川 秀樹	環境影響評価・環境政策
教授	安川 隆司	イギリス経済思想とインド古典派経済学と功利主義
准教授	安田 宏樹	労働経済学
専任講師	山辺 弦	スペイン語系文学、各国文学・文学論
准教授	横川 太郎	戦後アメリカ経済の金融不安定性に関する研究
准教授	横畑 知己	戦後日本社会の変貌と教育構造の変化－1945～1975－、日本史研究の動向(国内、海外)と我が国の日本史教育の再編成、R. Williams 研究－イギリスにおける教育研究と R. Williams
特任講師	吉原 学	英語
教授	羅 歆鎮	中国経済成長の政治経済学的分析、中国経済開発と教育発展、日中経済関係
准教授	李 蓮花	東アジアにおける再生産レジームの形成と容 東アジア、再生産、福祉国家、ジェンダー、保育 中国における都市と農村の一体化と福祉ミックス 中国、福祉ミックス、社会保障、準市場、医療保障
准教授	渡辺 裕一	理論経済、両大戦間期の国際金融

経営学部		
職名	氏名	研究分野
准教授	相澤 伸依	ミシェル・フーコーの方法論
教授	青木 亮	欧州を中心とする都市交通問題の調査、公共交通を中心とする補助制度の問題
教授	余部 福三	大規模国家(帝国)における中心と辺境(官僚・軍人の供給)、山岳民・遊牧民のイスラーム改宗とカリスマ的指導者のもとでの国家形成、都市民の自治運動と名望家・民衆
専任講師	石黒 督朗	経営環境論
准教授	板橋 雄大	会計学
教授	一瀬 益夫	IT ガバナンス、情報リテラシー
教授	井上 普就	監査主体論、監査報告
准教授	榎 基宏	銀河の形成と進化の研究、特に、銀河中心超大質量ブラックホールの研究



教授	大岡 玲	神話・民話等の物語構造分析を利用した創作、「国語」成立をめぐる諸事情、日本近代の翻訳史等
教授	小木 紀親	医療機関におけるマーケティング戦略、地域・行政におけるマーケティング戦略、ソーシャルビジネス
教授	小野 武美	“企業の所有構造と会計行動”に関する研究
教授	加藤 みどり	オープンな技術開発、R&D アウトソーシング、MOT および MOT 人材育成
教授	岸 志津江	消費者行動における広告効果に関する理論的・実証的研究、統合型マーケティング・コミュニケーション(IMC)の方法と効果
准教授	北村 真琴	日本のアパレル製造卸企業における非財務データの収集・分析 ファストファッション企業の調達ネットワーク分析
専任講師	木下 亮	経済統計学
准教授	金 鉉玉	ディスクロージャーの経済的効果、企業の情報開示行動に影響を与える要因分析
特任講師	小坂 恵理子	英語
准教授	小島 喜一郎	知的財産法の法解釈
教授	近藤 浩之	マーケティング
准教授	齋藤 雅元	応用経済学
教授	佐藤 修	生産情報システム、遠隔教育、情報システム
教授	柴田 高	技術規格の業界標準化プロセスの分析、研究開発から新規事業化への効率的プロセスの分析、観光事業における経営戦略の分析
特任講師	志村 ゆかり	日本語表現
教授	新正 裕尚	珪長質マグマの成因、広域変成帯のテクトニクス、西南日本弧の地史
教授	陣内 良昭	会計認識論 複式簿記構造論 アカウンタビリティ論
准教授	神納 樹史	財務会計、連結会計
特任講師	須賀 真以子	日本語表現
教授	関口 和代	ビジネス・プロセス・アウトソーシングと人的資源管理、国際分業化と企業制度比較、専門職のキャリア形成
教授	高井良 健一	教育方法学、授業研究、教師と子どもの関係論
教授	武脇 誠	業績給、成果主義、業績給指標、公正な業績評価方法、グループ別業績給
教授	田島 博和	消費者行動モデル、五感マーケティング



准教授	田中 景	20世紀初頭アメリカにおけるアジア系女性移民の比較史、19世紀ギリシア独立運動とアメリカ市民社会の形成
准教授	田中 智晃	楽器産業の歴史研究／音楽ビジネスの研究
教授	中 光政	サプライチェーン・マネジメント、インターネット技術を活用した流通情報システム、物流会計情報システム
准教授	中川 知佳子	第二言語理解における概念活性化と心的辞書再構築プロセスの解明
准教授	野田 淳子	自己理解と社会性の発達、発達(子育て)支援
特任講師	ビアルケ 千咲	日本語表現
特任講師	伏野 久美子	英語
教授	堀 泰裕	ロット生産システムにおける総製品在庫時間最小化スケジュールの構造に関する研究
特任講師	堀内 泰利	カウンセリング心理学, キャリア心理学, 産業組織心理学
教授	本藤 貴康	流通チャネル戦略、インスタ・マーチャンダイジング、小商圏業態、ID-POS、カテゴリー
教授	松岡 秀明	中国語学、中国文学
教授	丸谷 雄一郎	小売国際化に関する研究、小売国際化による現地市場への影響に関する研究、グローバル・リテイラーの現地適応化戦略に関する研究、ウォルマートの新興市場参入戦略に関する研究、中南米経済に関する研究
特命講師	森 理宇子	キャリアデザイン
准教授	森岡 耕作	ブランド価値のダイナミクスに関する研究
准教授	山口 みどり	制度の参照を通じた新規事業創造プロセスに関する研究
特任講師	山崎 ステラ	英語
准教授	山本 聡	国内・アジアの中小企業の取引関係・経営体制の変化、企業の統治構造と企業行動の実証分析
教授	山本 晋	経営学
教授	吉田 靖	経営学、経済学、資本市場、ファイナンス、実証分析、証券市場、財務管理、保険、不動産、リスク管理
教授	米山 高生	チャンドラー経営史が捨象した金融・保険についての経営史研究
教授	若尾 良男	最適化理論の経営システムへの適用
教授	渡邊 章好	マネジメント・コントロール、予算管理、参加型予算、予算スラック、エージェンシー理論



コミュニケーション学部		
職名	氏名	研究分野
准教授	阿部 弘樹	文系のための基礎数学、代数学(多元環の表現論)
特命講師	新井 一央	キャリアデザイン
教授	池宮 正才	社会調査とエスノグラフィー、ルポルタージュの言説形式の関係について
准教授	遠藤 愛	スポーツ科学
教授	大岩 直人	広告、コミュニケーションデザイン、メディアアート、クリエイティブスタディーズ
准教授	大榎 淳	テクノロジーアート、メディアアート、「拡大された芸術概念」「社会彫刻」の実践
教授	川井 良介	雑誌の総合的研究、ベストセラーの研究、新聞報道の比較
准教授	北村 智	情報通信技術の社会的インパクトに関する社会調査研究、日本人の情報行動に関する社会調査研究
准教授	北山 聡	ネットワークコミュニケーション研究、情報産業論(ソフトウェア産業の研究開発論および情報産業史)
専任講師	小林 誠	文化人類学
教授	駒橋 恵子	報道による市場行動・組織行動への影響、企業不祥事の発生メカニズムと発覚プロセス、広報活動の戦略的役割
専任講師	小山 健太	組織心理学、キャリア開発、キャリア教育 人的資源管理・開発、組織行動
教授	桜井 哲夫	1920年代以降のヨーロッパ知識人の社会史、グローバル化のなかでの国民国家の変容、メディア環境の変化とそれに伴う文化的変容
教授	佐々木 裕一	情報の価値とその収益化、ソーシャルメディア、情報過多
教授	柴内 康文	メディア・コミュニケーションの社会関係資本に対する影響
教授	中村 嗣郎	意味論と統語論の接点、語彙的意味論
客員教授	中村 理恵子	アート×杖道(じょうどう)研究・実践 新たな表現、可視化
教授	西垣 通	情報学基礎
客員教授	芳賀 啓	地理学、地域研究
教授	長谷川 倫子	メディア・コミュニケーション、メディア史
特任講師	林 剛大	英語



准教授	松永 智子	コミュニケーション史
		社会学、メディア研究、文化人類学といった広義の社会科学に基づいたミュージアム研究
准教授	光岡 寿郎	メディアによって構造化された空間、及びそこでの私たちの日常的な経験についての研究
教授	南 隆太	英文学
教授	本橋 哲也	カニバリズム言説、英国のメディア・カルチュラル・スタディーズの現状、シェイクスピア演劇と近代思想の成立
教授	山田 晴通	地域メディアの存立基盤に関する地域住民の視点からの考察、ポピュラー音楽に関する国際的な比較研究
特任講師	吉田 達	社会学 情報図書館学・人文社会情報学
准教授	ピーター ロス	英語教育

現代法学部		
職名	氏名	研究分野
教授	和泉澤 衛	法の経済学的分析(ケーススタディ等)、独占禁止法(抑止力の強化手続関係、刑事罰)
教授	大出 良知	刑事再審制度論、刑事弁護論、裁判員制度論、検察審査会制度論
教授	片岡 直樹	中華人民共和国の環境汚染防止に関する法制度の研究、中華人民共和国の環境紛争の研究、廃棄物と資源循環に関する法制度の研究
教授	加藤 一彦	政党の憲法理論、議院内閣制論、ドイツ統治構造の憲法的統制
准教授	金崎 剛志	行政法、地方自治法
教授	カレワ松崎 順子	第二言語習得、言語教育
教授	木本 洋子	民事手続法上の諸問題
教授	久保 健助	公法学
専任講師	古賀 絢子	民法、家族法、親権法、養子法
客員教授	小林 克信	社会法学
教授	桜井 健夫	投資サービス法、保険法、資金支払関係法(電子マネー、電子記録債権、決済代行等)
准教授	澁谷 知美	日本における男性の性の歴史 韓国大衆音楽(K-POP)の歴史
教授	関 昭典	外国語学習動機づけ、自律外国語学習、多文化理解、国際交流



教授	徐 京植	近現代アートを通じて「ディアスポラ」問題の研究「在日朝鮮人問題」を手がかりに民族問題一般を研究
教授	竹内 秀一	回帰診断、多変量データ解析の応用研究
教授	中川 純	社会法学
准教授	中村 悠人	刑事制裁論、刑罰、処分、量刑、行刑、刑事立法
准教授	永下 泰之	損害賠償、素因、意思決定、法の経済分析
教授	西下 彰俊	スウェーデン・韓国・日本における高齢者ケアシステムの比較分析、インドネシア人・フィリピン人の介護福祉士候補者・看護師候補者の受け入れに関する研究、フィンランド・ノルウェーにおける高齢者のケアマネジメントに関する研究
教授	野村 武司	公法学
教授	羽貝 正美	日欧比較都市行政・都市政策、地方自治ならびにローカル・ガバナンスに関する研究
准教授	橋爪 幸代	子どもの福祉、児童虐待への法的対応、ひとり親家庭への支援、育児支援
准教授	久川 伸子	学習者支援を目的とした日本語教授法の開発、語学教育における観察学習の方法論、大学教育における日本語教授法の開発
教授	藤原 修	国際政治の歴史と理論、平和運動、平和思想の史的、理論的研究、安全保障問題の史的、理論的研究、日本の平和、安全保障をめぐる諸問題
教授	細川 和憲	租税法、租税争訟法、不動産法、財政
客員教授	水野 邦夫	民事法学
教授	村 千鶴子	消費者法、消費者問題、消費者契約被害、消費者行政、消費者被害救済
教授	村本 武志	民事立法(政策)、民事法解釈への(認知)心理学・行動経済学の影響
教授	森反 章夫	現代社会とまちづくり実践、現代社会とM・フーコーの社会分析の手法、都市環境の系譜学的研究
特任講師	安永 明恵	応用言語学
教授	渡辺 龍也	NPO／NGO活動および国際開発協力。特に「フェアトレード」、「倫理的消費」にフォーカスして研究。また、「日本フェアトレード・フォーラム」、「日本エシカル推進協議会」等、フェアトレード／倫理的消費を推進する運動・活動に関る。



東経大インフォメーション

Information 1

新任役職者紹介

2017 年 4 月 1 日付でコミュニケーション学部長が新たに就任



コミュニケーション学部長
柴内 康文 教授

経 歴

1994 年 3 月	東京大学文学部卒業
1994 年 4 月	東京大学大学院社会学研究科修士課程入学
1996 年 3 月	同 大学院人文社会系研究科修士課程修了 (研究科改組による)〔修士(社会心理学)〕
1996 年 4 月	同 大学院人文社会系研究科博士課程入学
1999 年 3 月	同 大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学
1999 年 4 月	同志社大学文学部専任講師(～2002 年 3 月)
2002 年 4 月	同志社大学文学部助教授(～2005 年 3 月)
2005 年 4 月	同志社大学社会学部助教授(～2007 年 3 月)
2007 年 4 月	同志社大学社会学部准教授(～2012 年 3 月)
2012 年 4 月	東京経済大学コミュニケーション学部教授(現在に至る)
2014 年 4 月	同 全学教務副委員長(～2016 年 3 月)



Information 2

2017 年度入試報告

3 年連続で志願者が増加。推薦、AO は過去最高を更新

2017 年度の入試志願者は、合計数で 3 年連続の増加となりました。推薦・AO 等が過去 5 年で最多を記録した昨年より、さらに大幅増の 1,078 名となり、一般入試前期は 6,000 名を大きく超える志願者を集めました。

年度ごとの志願者数(単位:名)					
	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
推薦・AO 等	648	523	707	852	1,078
一般入試前期	4,689	4,062	4,703	5,165	6,462
センター利用試験前期	4,964	4,910	5,438	5,187	5,565
一般入試後期	601	471	889	807	1,141
センター利用入試後期	178	200	264	271	314
合計	11,080	10,166	12,001	12,282	14,560

Information 3

「大倉喜八郎 ^{しんいつそう} 進一層館 (Forward Hall)」が歴史的建造物に選定 過去には日本建築学会賞やグッドデザイン賞の受賞も

東京経済大学国分寺キャンパスの「大倉喜八郎 進一層館 (Forward Hall)」が、2017 年 3 月 23 日 (木) に、東京都選定歴史的建造物に選定されました。

これは、歴史的な価値を有する建造物 (歴史的建造物) のうち、景観上重要であるとして東京都景観条例第 22 条に基づき、東京都景観審議会の答申と所有者の同意を得て東京都知事が選定するもので、現在 89 件が選定されています。

「大倉喜八郎 進一層館 (Forward Hall)」は、1968 年から 2014 年まで、長年にわたって図書館として学生や教職員、卒業生、それに地域住民などに親しまれていました。天井までの高さが 4 メートルもありながら、柱が 1 本もない斬新な空間を演出している点などが評価され、大学図書館として初めて日本建築学会賞を受賞し、後の大学図書館界に影響を与えました。

2014 年の新図書館完成にともない、旧図書館となった本館をリニューアルしたのが「大倉喜八郎 進一層館 (Forward Hall)」です。



「進一層（しんいつそう）」とは、「困難に出会ってもひるまずに、なお一層前に進む」という現代の「チャレンジ精神」に近い意味です。本学の前身・大倉商業学校の創立者である大倉喜八郎が使用していた言葉で、東京経済大学・建学の精神となっています。

現在、本館は旧図書館から受け継いだ空間を生かしつつ、約 320 名の収容が可能な多目的ホールや史料展示コーナー、校友センター、キャリア・サポートコース事務室などが配置され、学生をはじめ多くの大学関係者に活用されています。

2015 年度には、公益財団法人日本産業デザイン振興会主催のグッドデザイン賞を受賞しています。



Information 4

2016 年度 ^{しんいつそう}進一層トライアル活動報告

「進一層トライアル」は、教員の教育改革に資する取り組みを支援するため 2014 年の秋にスタートした制度で、2016 年度は 3 つのテーマが選定されました。

1. 企業及び非営利組織とのコラボ企画によるアクティブラーニング

（申請者：小木紀親 経営学部教授）

「企業及び非営利組織とのコラボ企画によるアクティブラーニング」の活動主体は小木ゼミナールで、2015 年度に引き続き 3 つのコラボ企画を実施しました。



①地域から日本を元気にするため、地域の Web プラットフォームを運営している NPO「ニッポニア・ニッポン」とのコラボで、国分寺の魅力伝える Web サイト「国分寺物語」の企画や取材、編集などの運営業務に携わりました。地域に根差した活動として、国分寺市主催の「ぶんぶんウォーク」のイベント運営やプロモーションを行ったほか、国分寺第二中学校の生徒を対象に「国分寺物語の取材・制作」をレクチャーし、生徒の発表会にも参加しました。また、ゼミ生は国分寺市の井澤邦夫市長とケーブルテレビの番組で対談を行い、2017 年 1 月 16 日（月）～22 日（日）に放映されました。国分寺市・国分寺観光協会主催「第 38 回こくぶんじ写真コンクール」では審査員を務め、「国分寺物語賞」も設置しました。

②鈴木栄光堂・イーグル製菓とのコラボ「こんなお菓子があつたらいいなプロジェクト」では、成田空港や羽田空港のお土産、お菓子の販売を展開するためのプロモーションを担当。2015 年 10 月にイーグル製菓から発売された「ひとりじめスイーツチョコ（抹茶）」に続く新商品開発の検討を重ね、鈴木栄光堂の鈴木伝社長の前で 4 つのお菓子のプレゼンテーションを行いました。（※イーグル製菓は鈴木栄光堂のグループ企業です）

③本学生協食堂とのコラボで、対象メニューや食品を購入すると開発途上国の学校給食 1 食分（20 円）を寄付する国際的な活動「TABLE FOR TWO プログラム（TFT）」を展開。7～8 月には「井おろし」「トマチー丼」「ガーリー丼」を 1,943 食、「TFT ふわとろオムライス」を 1,354 食、12 月には「BBNB（ビビンバ）丼」「復刻・俺のとり丼」1,244 食を販売。プロモーションと販売方法の改善が奏功し、販売数は昨年約 3 倍を達成。4,541 食分の売り上げ 90,820 円を TFT に寄付しました。

2. グローバル化と地域連携の両方を推進する授業科目の開発

（申請者：柴田 高 経営学部教授）

経営学部の特別講義「グローバルキャリア入門」を通して「グローバル化と地域連携の両方を推進する授業科目の開発」を、2015 年度に引き続き行いました。タイ・バンコクの泰日工業大学との協定に基づき、相互交流を行いながら、本学学生の異文化コミュニケーション能力を高め、さらにタイの日系企業を訪問して日本人ビジネスパーソンからの体験談を聞き、自らのグローバルキャリアへの意識を高めることを目的としています。

本学学生と泰日工業大学の学生との間では Skype によるテレビ会議形式の交流会も行い、この新たな試みにより、早くから学生同士の交流が活発になりました。また本学学生は、英語でのプレゼンテーション能力向上に加え、特別語学科目である「タイ語」を同時に学ぶことにより、泰日工業大学の学生とも簡単な会話ができるようになりました。

「グローバルキャリア入門」は、5 月の泰日工業大学生の来日研修と 8 月の本学学生のバンコク研修が特徴です。2016 年 5 月 9 日（月）～5 月 30 日（月）まで、泰日工業大学経営学部の学生



7名が、本学での短期留学に参加しました。本学学生と共同で「タイで日本のお茶をさらに多く販売していくには何が必要か」という昨年度のテーマをさらに推し進め、小グループに分かれて調査、分析を実施。原料の生産プロセスを理解するために、国分寺市内で茶葉の栽培と製造を行う松本製茶を見学。その後、国分寺市にある殿ヶ谷戸庭園の紅葉亭で茶道体験を行い、日本のお茶の伝統文化を実感しました。キリンビバレッジ湘南工場の見学では、ペットボトル茶系飲料の製造プロセスを理解。イトーヨーカ堂新木場店の店舗見学、セブン&アイ本部では、調達担当者から流通システムについての説明を受け、これらの研修で緑茶ビジネス全体の理解を深めることができました。

2016年8月20日（土）～9月2日（金）は、本学から11名の学生がタイでの研修に参加。現地企業「Ichitan」の飲料工場とペットボトルを製造している日系企業の「東洋製罐」の工場を見学し、バンコク在住の本学卒業生の方々に海外でのビジネスや生活の体験談を聞く機会も持ちました。帰国後、本学学生は「タイで日本のお茶を売るにはどうすべきか」「タイなどASEAN圏で働くことから自分のキャリアをどう考えるか」などのテーマを中心に『グローバルキャリア入門 最終レポート&発表資料集』として成果をまとめています。

相互に訪問し交流する新形式の授業は2015年度から継続して行われ、学生の異文化コミュニケーションはさらに進展しました。

3. 学内志塾「キャリア塾」の展開

（申請者：青木 亮 経営学部教授）

学内志塾「キャリア塾」は、2017年4月スタートのキャリアデザインプログラムと連動して創設する「大倉進一層キャリア塾」のトライアル企画で、2015年度に引き続き実施。本学の若手卒業生を講師に招き、キャリアに興味を持つ2～3年生がゼミ方式で仕事の魅力を学びました。

回数／開催年月日	プログラムの概要
第1回 2016年5月11日（水） 第2回 2016年6月1日（水）	学生一人ひとりの主体性を開発するリアセック社のPBL（課題解決型学習）プログラム「タクナル」を実施（参加13名）。
第3回 2016年7月6日（水） 第4回 2016年7月29日（金）	第3回はリクルート社が開発した適職診断テスト「R-CAP」を受検。診断フォロー講座を開催し結果報告書の活用方法について理解を深める（参加14名）。 「R-CAP」テスト受検後の第4回は、㈱ロッテ マーケティング統括部の本原正明さん（2007年経営学部卒業）を講師に迎え、商品開発やマーケティング、社会人生活のあゆみ、就職活動の取り組み方などについて学び、事前に出された商品に関する課題をもとにディスカッションを実施（参加17名）。



第 5 回 2016 年 10 月 26 日（水）	国分グループ本社(株)の伊勢野友見さん（2009 年経営学部卒業）によるワークショップを開催。食品卸売業の役割や仕事内容について講義を受けた後、チームワークや問題解決力などを養うグループワークに取り組む（参加 15 名）。
第 6 回 2016 年 11 月 17 日（木）	アルカディア市ヶ谷にて「グローバル時代の仕事と働き方～世界目線で考える アジアでビジネスを成功させる 5 つの方法」をテーマに、台湾でライフスタイルなどのプロデュースを行っている「FUJIN TREE GROUP」CEO の小路輔さん（2002 年経営学部卒業）の講演会を開催。この会は、「キャリア塾」と本学の同窓会組織である葵友会（きゆうかい）の卒業後 10 年以内の卒業生が集う「若手交流会」のコラボ企画として実施した。講演会終了後の懇親会に参加した学生は、比較的年齢の近い卒業生との交流で、将来に向けてよい刺激を受けることができた（参加 22 名）。
第 7 回 2017 年 2 月 13 日（月）	羽田空港にて、「羽田空港内部探索セミナー」を実施。就労・就業の支援・援助やセミナー企画等に関する事業を展開する特定非営利活動法人ウィメン・アット・ワークと ANA の協力を得て、日ごろ目にすることができない空港内部や ANA のオフィス、機体整備工場などを見学した。また客室、運航、旅客の各部門のスタッフから仕事内容、やり甲斐などの話を聞き、自身の就職を考える上で視野を広げられる機会となった（参加 24 名）。

Information 5

創立 120 周年記念プロジェクトスタート

学生自身の手で、4 年間のチャレンジを動画に記録

東京経済大学は、2020 年に創立 120 周年を迎えます。本年度から 4 年間の計画で、学生のチャレンジを映像で残す「学生たちのはじめて物語」の制作をスタートします。

この取り組みは、本学の建学の理念である「進一層」を体現する学生が 4 年間チャレンジし続ける様子を、学生自身の手で動画として記録するものです。5 月中旬から撮影・編集研修をスタートし、その後実際の制作に取りかかります。映像作品は、創立記念日である 10 月 23 日(月)に大学 Web サイトの「創立 120 周年記念特設サイト」に掲出する予定です。

Information 6

大学案内を「Space2018」発行

「わたしが、わたしらしく。」が5月19日（金）に登場

教学ビジョン「東経大チャレンジ2020」についての紹介、大学の学びや学生生活など、大学のすべてを受験生にわかりやすく説明した大学案内「Space 2018」を、5月19日（金）に発行する予定です。

大学ウェブサイトでは、大学案内と連動した企画「わたしが、わたしらしく。」と題して、学生たちがどのようなキャンパスライフを送っているかを紹介しています。大学案内紙面上で紹介しきれない東経大生の1週間を受験生に見てもらうことで、東京経済大学をより身近に感じてもらうことができます。

Information 7 その他

●大学説明会 開催

東京経済大学では、この4月にスタートした「キャリアデザインプログラム」や、本学の教育内容、就職支援への取り組み等について高校教諭などを対象とした説明会を開催いたします。

国分寺キャンパス 大学説明会	
日時	2017年5月23日(火)14:30～17:00 2017年5月29日(月)14:30～17:00
場所	東京経済大学 国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館 ホール 国分寺市南町 1-7-34(国分寺駅南口より徒歩12分)
当日連絡先	042-328-7747(入試課直通)
大宮 大学説明会	
日時	2017年6月20日(火)14:30～17:00
場所	大宮サンパレス 3階ストーリーア さいたま市大宮区仲町 1-123(大宮駅東口から徒歩約3分)
当日連絡先	048-642-1122(代表)

【説明会内容】
第一部:全体説明会(14:30～16:15) 1.大学挨拶／2.キャリアデザインプログラム／3.学部教育、学生支援／ 4.就職支援／ 5.入試概要 第二部:個別相談・キャンパス見学会(16:15～17:00) ※希望者のみ

●大倉喜八郎 口述『致富^{ちふ}の鍵』刊行

本学の前身、大倉商業学校創立者・大倉喜八郎の『致富の鍵』（330頁／3,000円）を日本経済評論社から刊行します。これは1911（明治44）年に刊行され、1992（平成4）年に復刊されましたが、原本の内容が大幅に削除され現在は絶版となっています。

今回は本学史料委員会の編集により、『大倉喜八郎かく語りき』（2014年10月刊行）、『努力』（2016年3月刊行）に続く大倉喜八郎の著作の第3弾となります。本書は、現代の表記に改めたうえで詳細な注がつけられており、21世紀に完全な姿で蘇ることになりました。5月中旬から、全国書店にて販売開始となります。

●第7回 東京経済大学・国分寺地域連携フォーラム 「都市農業“2.0”～新時代の都市農地の可能性～」

田圃や畑が住宅地に囲まれながらも、かろうじて存続する都市農業。東京でも高度成長期以降、都市農地の減少は続いています。

都市住民にとって、農地はさまざまな生活上の潤いをもたらすものではありませんが、このまま消滅させてよいのでしょうか。

国もいま、都市計画法の改正による新たな手法を検討しています。都市における農業の可能性を広げ、「田園地区」の価値を高めていくことが求められます。どんな手立てがあるのでしょうか。

本フォーラムでは、都市農業というプラットフォームでさまざまな可能性を追求している方々をお招きして、都市における「農地」の多面的な価値について考えます。





日 程	2017 年 6 月 2 日（金）14：30～17：00
会 場	東京経済大学 国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館
主 催	東京経済大学・国分寺地域連携推進協議会
参 加 費	無料
申 込	不要
プログラム	<u>基調講演（&パネルディスカッションコメンテーター）</u> ・国土交通省都市局都市計画課 課長補佐 野村 亘氏 <u>パネルディスカッション／パネラー</u> ・「こくべじ」プロジェクト担当者／国分寺市市政戦略室 中島健太郎氏 ・農家＋市民＋自治体の新しい農園経営／くにたちはたけんぼ代表 小野 淳氏 ・「農福連携」のあらたな試み／NPO 法人 Ohana 施設長 白瀬美弘氏 ・都市の学生が農業に取り組むあらたなしくみ／インカレ農業サークルぽてと代表 森田 慧氏 ・都市農業からの「6 次産業化」／めぐるみ Labo&café 代表 高浜洋平氏

●大倉学芸振興会学術講演会

「国鉄分割民営化 30 年－歴史の文脈の中で考える－」

講師：老川慶喜氏（立教大学名誉教授、跡見学園女子大学教授）

1987 年 4 月、日本国有鉄道が分割民営化され JR 体制が発足しました。JR 東海が高収益を挙げてリニア中央新幹線の開業を目指しておりますが、同北海道や四国は赤字ローカル線をかかえて苦勞しているのが 30 年目の現実です。一方、日本で最初の鉄道が開業したのは 1872 年、今年には鉄道開業 145 年。この長い歴史の文脈の中に JR 体制の 30 年を位置づけ、今後の鉄道のあり方を展望します。





日 程	2017 年 6 月 17 日（土）開演 15 : 00（開場 14 : 30）
会 場	東京経済大学 国分寺キャンパス 2 号館 B301 教室 東京都国分寺市南町 1-7-34（※会場変更の場合があります）
参加費	無料 ※事前申込制
申込方法	申込用紙にお名前、郵便番号、住所、電話番号、参加人数を記載し FAX または郵送してください。下記フォームからも参加申込できます。 http://www.tku.ac.jp/contact/cgi_ookura/form.cgi
定 員	先着 400 名（申込順に予約券を発送いたします） ※定員に達し次第、締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。
主 催	東京経済大学・大倉喜八郎記念東京経済大学学術振興会
問い合わせ	東京経済大学 総合企画部 広報課 電話（042）328-7900／FAX（042）328-7768／メール pr@s.tku.ac.jp

【東京経済大学 総合企画部 広報課】

〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34

TEL:042-328-7724 FAX:042-328-7768 email:pr@s.tku.ac.jp